

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、公明党松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

ことしもあと残すところ、きょうを含めて23日ですか。ただ、年の瀬に向けて、新型インフルエンザが猛威を振るっておりますので、市民の皆さん方におかれましては、健康には十分注意をしていただくことを申し上げながら、ことし1年を振り返ってみますと、皆さんは何を思い起こされるでしょうか。

1月はバラク・オバマ氏が第44代アメリカ合衆国の大統領に就任をされ、アメリカならではの感動的な就任式が行われた1月でございました。2月は、見に行かれた方も多いかと思いますけれども、滝田洋二郎監督の「おくりびと」がアカデミー賞を受賞いたしました。3月は、公明党が推進をしてきた1万2,000円の定額給付金の支給が始まった月でもありました。また、4月は北朝鮮のミサイルが日本上空を通過するという情報が流れた月です。5月は、裁判員制度がスタートし、6月は、以前一般質問でも皆さんに御紹介をしたかと思えますけれども、全盲のピアニスト辻井伸行さんが、国際ピアノコンクールで、日本人で初めて優勝された6月でございました。7月は、皆さんも見られたかと思えますけれども、日本列島で何と46年ぶりの皆既日食が見られました、私も一瞬でしたがカメラにおさめた月でございました。

8月から9月は、衆議院選挙一色で、民主党が第一党となり、与野党の政権が交代をいたしました。10月以降を見ても、完全失業率が過去最高ですか、11月の22日、「失業率12カ月連続増 10月の見通し過去最悪に迫る」という記事が出ております。また、高校生の内定率においても、内定率過去最大の下落、氷河期再来のおそれという記事も出ております。

また、円高、デフレの直撃ということで、年末からまた新年度に向けての経済の影響が非常に危惧をされている中、このような景気低迷の中、武雄市の税収がどのように推移をしているのかどうか。また、そういうような状況で、どう対応をされているのか、まず最初の質問で通告をさせていただいております。

また、2点目は、さきの6月の一般質問で、がん対策について質問と提案をさせていただいたところでもございましたけれども、2カ月前、10月に55歳で、また55歳の若さでがんと闘いながら、とうとい命を落とした大切な友人を身近にしたときに、がん対策のさらなる強化をとの思いで、今回もがん対策、がん予防日本一武雄への今後の計画と提案をさせていただいております。

最後の3点目は、今、非常に事業仕分けが取りざたされておりますけれども、必要な事業は継続をしながら、緊急性がある事業については、早急に予算をつけて、市民の目線で取り組んでいくのが事業仕分けと考えますので、最後に事業の継続と事業の提案をさせていただきます。

それでは、最初に景気低迷、武雄市の現状と対策について、税収と事業の仕分けの観点から質問をしていきたいと思ます。

09年度の国の税収を見てみますと、46兆円から37兆円、約9兆円の減収、減税の見通しの数字が出ております。この国の9兆円の減収の中で、武雄市においては、自主財源でもあり、また、収入の柱である税収は、当初予算と比較して、どのように現在推移をしているのか、まずお尋ねをさせていただきます。

御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

税収につきましては、今議会で上程いたしております第180号議案 一般会計補正予算（第8回）でお示しさせていただいておりますけれども、1億1,900万円の減額補正をお願いしているところでございます。この主な原因といたしましては、厳しい経済情勢の中で個人市民税の落ち込みが非常に大きいというのが大きな原因でございませう。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今年度1億1,900万円の減収の見通しという答弁ですけれども、歳入の柱が税収ですから、当武雄市にとっては非常に大きな金額ですよ。ただ、1億1,900万円、余りにもけたが大き過ぎるものですから、市民の目線ではぴんとこない部分と申しますか。

例えば、国の9兆円、10兆円減収、減額と、もう1兆円てなると、ゼロのけた数が12個つくんですよ。そういうような状況の中で、金額の目安というか、わかりやすく金額を物差しにすれば、非常にわかりやすいということで、ちょっとその辺でお金を物差しではかったもんですから、ちょっと皆さんに御紹介をしていきたいと思ますけれども、100万札束が約1センチですよ、厚みがですね。1億円で1メートル、10億円で10メートル、1兆円となると1万メートルですよ。1万メートルというてもぴんとこない部分がありますが、富士山が3,776メートルですから、富士山の2.6倍ぐらいですね、1兆円積み上げれば。そういうふうな金額ですよ。あるいは今、円高で円が強くなっています、今、円が90円ぐらいですか、きのう、おとといが、それが89円になったと。例えば、円が1円高くなることによって、SUMCOの経常収益が4億円違うとですよ、1円違うことによって4億円違うと。そういうこととかですね、先ほど言いました武雄の1億1,900万円、積み上げれば約1メートル20センチ、このくらい積み上がりますね。そういった状況の中で、1億1,000万円を今度は1人当たり、市民の1人当たりの金額に直しますと、1人当たり2,309円、1世帯当たりに直しますと6,983

円の金額が減少になるということです。

例えば、ガソリンがリットル5円、10円、あるいは卵が10円、20円下がったというとても非常に身近に感じますね。しかし、全体的に武雄市の減収が1億9,000万円ですよ、国の9兆円、10兆円、ぴんときないわけですよ。やっぱり市民に身近に感じさせるためには、やっぱりお金というのはある程度物差しではかって皆さんにお示すするのも大事じゃないかということで、こういうふうに例えながら御紹介をさせていただいたところであります。

そういったことで、長崎県出身の村上龍さんが、「あの金で何が買えたか」という雑誌も出しておられます。ここで皆さんにも御紹介したかったですけれども、時間の都合がありますものですから、また次回にじかに紹介をさせていただきますけれども、このような目線で、ぜひとも12月の市報にも20年度の決算の報告が出ておりました。ただ、こういうような決算を見ても、なかなか市民はぴんときないわけですよ。先ほども申し上げたように、その辺の目線で記載をしていただければ、もっと財政が身近に感じられるという部分がありますので、その辺、市長どんなお考えでしょうか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も全く同感であります。

そこで、恐らくきょう、多くの方がケーブルワン、テレビを見ておられると思います。まさに、議会議員の役割はここにあるというふうに思っているんですね。なかなかその行政で数字を出すにしても、なかなかその翻訳というののできにくい部分があります。それを、一般質問というその場で、そのようにその翻訳をされて私たちに問うていただいているということは、ある意味、議員活動としてあるべき姿だと私は思っておりますので、その姿勢は私どもも見習ってまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともよろしくお願ひ申し上げながら、先ほど予算等は1億1,900万円の見込みが減収になる予定ということで、報告を受けましたけれども、20年度の税収の決算額を見ますと、決算額で総額が55億2,110万円、入ってきた税収が。実績ベースで、この1億1,900万円ぐらいの減収になるのか、ちょっと実績ベースではどういうふうな判断をさせていただいていいのかちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をよろしくお願ひいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

20年度の決算額につきましては、議員おっしゃいますように55億2,110万円。現在21年度
の予算での市税の見込み額というのをうたっておりますけれども、51億5,166万円とい
うことで、約3億6,900万円の減額、対前年に対して3億6,900万円の減額となるとい
うような見込みが出されているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

当初予算比では1億1,900万円減少しますよと、ただ、実績としてはどうなんですかとい
うここ大事か部分ですよ。実績ベースでは3億6,000万円減収という非常に、倍以上の実績
からすれば税収が落ち込んでいるというふうな状況です。

そういった状況になって、当然、実績があつて予算があるわけですけども、予算と予算
と比べるんじゃないくて、実績と実績ですね、前年度実績と今年度実績で、実績ベースでどう
なんだということの検証が必要ということで、私が私なりに確認をさせていただいたところ
でございます。その3億6,900万円に関しては、また後日というか、後で質問の中に入らせ
ていただきますけれども、きょうの佐賀新聞、きょうの新聞もそうですよ。追加経済対策7
兆2,000億円。年末年始に向けて、非常に経済効果があるかと思ひます、7兆2,000億円です
から。ただ、中身ですよ、この7兆2,000億円の中身、中身を見てもみますと、7兆2,000億円
のうちに、2兆7,000億円が第1次補正の凍結した停止分が含まれるわけですよ、ここに。

それと3.5兆円は、今、先ほど言いました9兆円、10兆円の減収分の地方交付税として補
てんされる金額ですよ。差し引き1兆円だけしか、今回の緊急経済対策には充てられないと
いうことですから、その辺は中身を検証して、もっとこういうふうな冷え切った経済情勢の
中で、追加経済対策を打つべきじゃないかということで、公明党も野党となったもんですか
ら、この辺は徹底して景気対策、今非常に落ち込んでいますから。先ほど言いました内定も、
もう氷河期に来ているというような状況ですから、もっと経済対策に手を打っていただきた
いということで、強く市長ともども要望をしていきたいと思ひますので、その辺をぜひとも
お願いを申し上げながら、ちょっと話を進めていきたいと思ひます。

先ほど言いました収入の柱が税収、自主財源である税収が約1億円、実収ベースで3億
6,000万円落ち込むと。ちょっと仮に、給料が10万円減ったと、そしたら、やりくりどうし
ますか。減った。それで、支出をどこで10万円削るのかどうか。あるいは、預金を取り崩し
て当面その10万円に充てるのかどうか。あるいは、給料が上がるまで借入れをするのかど
うか。

そういった状況の中で、先ほど武雄市の財政の中で、当初見込みよりも約1億円減収、実
収で3億6,000万円減収というような部分に関して、その減収部分をどういうふうな形で、

例えば、先ほど預金を取り崩すのか、借り入れをするのかという話をさせていただきましたけれども、それは、減収分は市債、借り入れで補てんをされる計画なのか、あるいは、事業支出を抑えられるのか、あるいは、基金を取り崩して充当されていかれるのか。また、具体的に、この減収が市民の皆さんにどのような影響を及ぼすのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思いますので、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

財政運営は本当に難しいです。私も専門で十数年やってまいりましたけれども、例えば、基金の取り崩し、あるいは地方債を発行するに当たっても利率との関係、あるいはそれをどこから借りてくるかという関係、それと補助金の組み合わせ。これパーツだけでいっても100種類ぐらいになるところがあるんですね。ですので、私どもは、私を含めて、ある意味行政のプロですので、極力市民の皆様方に負担のかからないような財政運営をしていきたいというふうに思っております。

これは、私が着任して今までのところ、それはできていると自負をしております。極力、事務の無理、無駄、あるいは事業の無理、無駄を省くことは当然ですけれども、弱い方々に、社会的に弱い、あるいは身体的に弱い立場に置かれている方々が、大体行政改革、財政再建をやると、一般的に言ってそこに負荷がかかるようになります。ですので、我々は、その方々にかからないような行財政運営をする必要があるだろうというふうに思っておりますので、基本的には今、ちょっと私どもが言えるのは、未曾有の財政危機にあります。国もそう、私どももそうでありますので、今のところ、何か借り入れをするよりは利率がちょっと上がりつつありますので、借り入れをするよりは、今持っている基金から米百俵じゃありませんけれども、充当する必要があるだろうというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういった中で、どういった補てんをしていかれるのかちょっと確認をさせていただいたところでございますけれども、暫定税率の廃止も今の民主党政権が考えておるわけですよ。暫定税率の廃止によって、交付税もまた減ってくるわけですよ。要は、そこが問題ですよ。

その辺も今後、財政、市政運営にどう影響していくのか、市長、その辺のちょっと確認をさせていただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

暫定税率の廃止は私も反対であります。これがあつたからこそ、今までの道路整備であるとか、今、一般財源化に振り向けられて、その道路に関連するような、例えば今度、新幹線という複線化であるとか、踏切であるとか、そこまで使えるようになっているんですね。ですので、これがないと、どうやって私どもは、例えば必要なその道路整備をするのか、あるいは道路に関連する事業をするのかというのが皆目見当がつかない。

もう1つ問題なのは、先ほどいみじくも財政のプロがおっしゃいましたけれども、地方交付税交付金に直結するわけですね。ですので、もう二重三重にトリプルアウトになるわけです。それと、もう1つが、これは杉原議長がよくおっしゃっておられますけれども、CO₂削減との関係はどうするんだと、25%の関係はどうするんだと。確かに、そのガソリンが安くなることによって、私どもユーザーにとってはいいことかもしれませんけれども、高速道路が多分もういっぱいいっぱい、もう有田陶器市並みみたいになる可能性があるわけですね。信号機をつけなきゃいけなくなる可能性だってあるわけですね。ですので、そういう私は暫定税率の廃止については、前々から申し上げておりますけれども、代替措置をとるんだったら、賛成に回ってもいいと思います。何か、例えば環境税であるとか、しかし、それをなきままにやると、ますますその財源の枯渇が生じると思いますので、ぜひ、連立政権下におきましては、そういう責任のある対応をぜひしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

暫定税率に関しては、賛否当然あります。ただ、廃止して全体像でどうなっていくんだという部分を明確に、説明責任の部分ですよ、そこは。そういうような部分を今後確認をして、訴えもしていきたいと思っておりますけれども、ちょっと話を戻しますけれども、1億円あるいは実収ベースで3億円6,000万円の減収、それをどうやってカバーしていくかというのが、今からの市長の手腕だと思いますけれども、今、政府・与党が躍起になってやっている事業の見直し、仕分けによる予算の見直し、削減も1つの方法かと思っておりますよ。ただ、そういった事業の仕分けについては3年前、06年度、公明党が政党として初めてマニフェストにうたわせていただいた事業仕分けですよ、06年から取りかかっております。

そういったことで、私も3年前、18年12月、ちょうど3年前の12月ですよ。この一般質問の中で、事業仕分けによる行財政改革、市長どうですかということで提案をさせていただきました。そのときの議事録をちょっと読ませていただきますと、18年12月11日一般質問で、事業仕分けによる行財政改革のさらなる推進、提案ということでお尋ねを市長、させていただきますということで、3年前から申し上げておりました。

滋賀県の高島市では人口が約5万5,000人、武雄市と余り変わらないですね。予算規模が

268億円、若干武雄市よりも多いですけども、そういった中で、119の事業に対して、総事業費が128億円。これを事業仕分けによって、最終的には14事業に対して3億2,000万円不要としたという、滋賀県の高島市の事例を、話をさせていただきながら、市長の答弁として、私も基本的には事業の仕分けについては賛成で、それにのっかって、今後の事業仕分け作業をやっていきますと、この事業が本当にいいかどうか、続けるべきかどうかということは、私は基本的にはこれは議会の仕事だと思っております。私は議会に期待をしておりますし、そういった観点での精査をぜひ必要として、その上で、私は市民の皆さんに諮るべきというふうに考えておりますということで答弁をしていただいております。その答弁を受けて、私も議会がチェック機関であるわけですから、その辺は十分我々も再認識をして、事業仕分けを明確に訴えもしていきたいと思っておりますし、そういった中で、執行部の方も貪欲に改革に対しては前向きに取り組んでいただきたいことを切にお願いを申し上げてということで結んでおりますけれども、その3年前、18年12月からその後、事業仕分けの取り組みが、どのような具体的な取り組みをなされたのかどうか、また、その成果もお尋ねをしていきたいと思っております。御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、さきの答弁でもお答えしましたように、民主党政権の事業仕分けそのものについては私も賛成の立場です。パフォーマンスとしては本当にいいことをやっているというふうに認識をしております。

私は、樋渡市政になって最大の事業仕分けは病院だったと思っております。議会で議論百出、賛成もあれば反対もある。それがテレビに放映をされて、「朝ズバッ！」でも取り上げられるぐらいに非常に、去年の今ごろ、ちょっと前ぐらいに活況を呈したということで、私は民主党の蓮舫さんがおっしゃっている姿を見ながら、実は私は、この議会が、もうまさにやっているじゃないかということで、私は病院の事業が最大の仕分け作業だったというふうに思っております。

そういう意味で、議会が最終的にはもう民間移譲に賛成をしていただいたと、これは、議長、副議長、黒岩議員さんともども、そういったことでおっしゃっていただいておりますので、私は、それはだれも言いませんけれども、それが仕分け作業だったというふうに思っています。そして、事務的な仕分け作業には、担当部長からお答えをいたしますけれども、よく考えてみると、この一般質問そのものが、事業の仕分けにもう私はなってきたと思うんですね。レモングラスについてもそうです、イノシシについてもそうです。ですので、私は本当に恵まれているのは、市民の皆さんたちは本当にいい議会をお持ちだということで、私はこの場をかりて、深く感謝を申し上げたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

事業仕分けの作業について、簡単に御説明申し上げますと、私どもは合併時からすべての事業について、一つ一つの事業についてシートをつくりまして、その事業がどういう目的なのか、あるいは、それは本当に市がすべきなのかどうかという、そういうシートをつくりまして、一つ一つ検証してまいってきております。これを取りまとめたものが事務事業計画でございます。

平成19年度からは、政策評価、事務事業評価から政策評価という、いわゆる政策まで評価するというやり方を採用しております。

今年度、評価件数につきましては、事務事業評価につきまして465件評価いたしております。その評価結果は縮小が3件、統合が2件、廃止が4件でございます。国がやっています事業仕分けと若干異なるのは、外部の目をまだ通していないと、部長評価で、自分たち自己評価と部長評価で対処しているというところが、国がやっている事業とは若干違うというところでございます。

〔4番「金額にしてどのくらい削減というか、効果が出たというのは答弁できますか」〕

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

それでは、後だって結構ですから、もしよければ、金額がどのくらいだと、評価が400何点とか、先ほど、その金額じゃないですけども、市民の皆さんびんどこないわけですよ。だから、ある程度金額がこのくらい削減できたということで、金額で提示をしていただければ、今後そのような形でよろしくお願いを申し上げまして、今後ともその事業仕分けは必要な部分ですから、ただ、仕分けに当たっては、やっぱり市民の目線でしていくのが事業仕分けですから、あるいは外部も入れながら、今後は事業仕分けをやっていくという部分が大切かと思えますけれども、その辺に関して御見解を市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、あくまでもこの事業の仕分けというのは議会の仕事だと思っております。行政に、何の権限もない外部の、例えば、横浜の有名な方がいらっしゃいます。そこに入ってきていただくと、私はまたワンマンと言われてしまいます。そういったことで、そうではなくて、やはり議会がその任をするというのが、私は一番正当性があるやり方だと思っております。

じゃあ、外部の意見はどうするかといった場合に、私はちょっとここから先は、議会のこととなりますので、踏み込んで答えませんが、例えば、市民病院の民間移譲のときも、よく議長さんと議論させていただきましたけれども、例えば、本会議に一般の方を呼ぶというやり方が、有識者の方を呼んで、あるいは委員会規則で認められるかどうかわかりませんが、委員会に有識者を参考人として呼び出すといった中で、その中で、ワンテーブルで議論をするということはあるのかなと。

もともと民主党の仕分けについても、最初そういったことでスタートしていたんですよね。小沢何がしさんっていう方々が、1年生議員はまかりならんということで引き上げて、その分に外部の有識者が入ってきたということと理解をしておりますので、やはり、小沢民主党さんもそういったことを——ごめんなさい。鳩山民主党さんもまず、議会、議員を中心とされて、その中で議論をすると、役人を呼んで議論をしようというのは最初の流れだったと思いますので、私はその本来の事業仕分けというのは、議会の市民から負託をされた議会の皆様が大所高所から御議論をされる場だと。

この機能というのは、先ほど申し上げたとおり、余り言われませんが、私は武雄市においては十分効果を発揮しているんじゃないかと。というのは、例えばきのうもありました。いろんなことで、議員さんから御質問があって、夜帰りよったら、やっぱりその議会のその質問なり答弁が市民の話題になるんですよ。「市長、あいどがん意味や」とか、「あの議員さんはどういう意味であがん質問されたとやろうか」ということで、非常に根づいているなということを感じましたので、引き続き私たちとしても、きちんとやっぱり答弁をしていく必要があるだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういったことで、18年の12月でしたか、市長からの答弁でも、議員にも期待をしているということでしたので、私のほうも今まですべてが費用対効果では振り分けできない部分を、それは当然理解しながら、指定管理者制度の導入あるいは民間移譲へどうですかという提案もさせていただきました。

そういったことで、今回、ちょっと目線を変えて、組織風土や慣例はどういうふうな形で刷新をされておられるのかどうかという問いかけもさせていただいております。

ただ、この質問に関しては、先ほどの川原議員と若干重複する部分がございますので、割愛といいますか、やっぱり事務レベルでは現場でしかわからない部分があるわけですよ。我々はその庁舎の中まで一つ一つ個々に当たっているわけにはいきません。対市民の皆さんの要望とか外部的な要望を一生懸命聞きながら、市政にどうやって反映させていくのかどうかというような部分での仕事が主なものですから、内部事務がどうなって、どこが無駄があ

るのかどうかとか見えない部分があるわけですよ。そういったことで、提案制度というのは非常に大事な部分だと思いますから、その分はもう一度徹底をされて、内部で改善できる分は明確に市民にもわかるように、また、わかりやすいような形で、こうやっているんだよという部分の問いかけもしながら、ぜひとも継続して、していただきたいと思いますけれども、その辺でもう一回確認を、市長御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、全く同感であります。

やはり、議会あるいは私ども、副市長も私も特別職でありますので、なかなかその組織の隅々までにじゃあ目が光る——それは無理です。したがって、その組織に属されている方々同士がいろんな無駄を排除するとか、こういうことをやってみようというような開かれた、オープンな市政に私自身の責任として、していく必要があるだろうということを思っております。

それに加えて、やはり外部の力、目線というのを入れるのは、僕は大事だというふうに思っております。1つの例で言うと、やっぱりIターン、Uターンなんです。昨日、4名の合格者を発表させていただきましたけれども、そういったIターン、Uターン、とりわけ、Iターンの皆さんたちに、その力を発揮してほしいというふうに思っております。やはり、異なる視点で見ていただくということが非常に大事ですし、目立たないところでもこうしたほうがいいよということは、私のところにも入ってまいります。そういった、やっぱり切磋琢磨するということと、お互い協調しながら見合うということが非常に大事だというふうに思っております。

それともう1点が、よかったなと思っているのは、三木市との人事交流であります。三木市の小田君と、私どもの職員をある意味交換、人事交流と名のつく交換をさせていただいて、これが非常によかったんですね。やはり、三木市の小田君が、私どもの職場で頑張っていたいて、もう私自身も引きとめたかったぐらいですけれども、そこでいろんな文化を持ってきていただいたと、そして、私どもから菰田さんを送りましたけれども、非常に三木市でも評判がよかったんですね。あそこも戻ってほしくないというぐらいに評価をいただいて、こういう人事交流というのは非常に大事だということで、私どもが今検討しているのは、長崎市、横浜市から武雄の人材をぜひ欲しいというオファーが来ております。これは、本当に職員の皆さんたちが頑張って、それだけの評価をいただいているというところまで来ておりますので、ぜひ、私どもといたしましては、もちろん、これは出しっ放しではなくて、長崎市からも横浜市、あと幾つか来ておりますけれども、それはちょっとうちの関係もありますのでまだわかりませんが、外部の力を入れて、そして、私どもの職員がまた外部で武者

修行をしてくる、それをまた帰ってきたときに生かすということで、弾力的な開かれた人事運営をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も市長の答弁と全く同感でございます。そういった状況でぜひとも実施をしていただきたいということで思っております。

先ほどは内部組織の風土、あるいは慣習をどう刷新していくかという視点で提案をさせていただきましたけれども、先ほど言いました対外的な事業等は非常にわかる部分がありますけれども、その内部事務になると、なかなか見えにくい部分がありますもんですから、その辺は市長がみずからリーダーシップをとっていただきながら、一層の刷新をよろしくお願い申し上げて、次の質問に入っていきたいと思っております。

雇用と企業誘致について、質問を移らせていただきます。

冒頭に申し上げましたとおり、今、企業の生産性が非常に落ち込んでいます。円高、デフレというような部分の中で、雇用、所得環境も悪化ですね。そういった状況の影響が、現在個人消費、家計にも影響が非常に出てきております。

ただ、生活、生産活動、雇用があって生計が成り立っておるわけですね。また市政も同様に、雇用、生産活動に対する取り組みがあつてこそ、市政が成り立っていくわけですよ。非常に重要な部分だと思っております。

そういったことで、きのうも質問が出ておりました、質問というか、答弁もあつていましたけれども、09年の9月の資料しか私持ちませんけれども、武雄市管内の有効求人倍率が0.37、10人に3.7人しか企業から募集がないわけですよ。あと6人ほどの方は、仕事をしたくても仕事がないというような状況ですよ。全国、佐賀県平均からしても非常に悪い、武雄市管内は。

それと、さあ今から社会に飛び立とうという高校生の内定率も40%ですよ、10人に4人しかまだ内定が来ていないと。6人は路頭に迷うというか、卒業した後はどうしようかという、もう人生の岐路ですよ。そういった状況が非常に冷え込んでいる中で、武雄市としては今回、第8回の補正予算が上程をされておりますけれども、こういった形で雇用対策をされていきますかということで質問をされておりましたけれども、緊急雇用対策で対応しておりますよというふうな答弁もきのういただいたところですけども、今後は新卒者に対するそういうような支援を具体的にどうやっていくのかと、こういう時期にあつては。それはハローワークあたりの仕事ですよということを言ってしまえばそうでしょうけれども、市としても何とかそういうふうな新卒者のフォローといいますか、それはもう高校ではいろんな形で就職指導員の方々も、いろんな就職のお世話をさせていただいておりますけれども、市としてもやっぱ

りその辺の下支えをすることが生活者の目線に立った市政運営ではないでしょうか。

市長もきのうおっしゃっておいりましたスローガンの部分ですね、生活者第一というふうな部分で言っておられました。政治は思いやり、気配りですよ。昭和21年の第1回の国政選挙のスローガン、市長おわかりですか。21年、国政選挙の466名の定数に対して、約2,700名ぐらいの立候補者。全国で一番支持されたスローガンが、「イワシ1匹と米3合」というスローガンが一番支持されたそうでございます。21年当時といいますと、食糧難の時代ですよ。そういった状況の中で、一日も早く国民の皆さんにイワシ1匹と、また米3合を食べるような国に何とかいち早くさせていこうというスローガンだったそうでございます。

そういった中で、市長も生活者、市民の目線でというような部分で答弁というか、言われておいりましたけれども、そういうふうな部分も何とか行政としてでも下支えをしながら、今からの世代を、今の若い人たちをいかに育て上げていくかというのも大事な部分だと思いますけれども、その辺のお考え、見解があれば市長、お尋ねをしていきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

6つほど案がありますけれども、その中の主要な1つだけをちょっと申し上げたいと思います。もちろん、その緊急雇用で市が直接雇用するということもあろうかと思っておりますけど、これはもうその期間だけでありますので、1つ大きなのは、やはり武雄市が「ぬくもりのある元気な市」と、私自身が標榜しておりますので、そういった意味では福祉、医療、介護に手厚く行政としても支援する必要があるだろうと思っております。

その中で、ぜひ申し上げたいのは病院であります。

今回、新武雄病院ができることによって、看護学校あるいはリハビリテーションの学院が付設される。こうなってくると、今まで高校を出て就職ができないという皆さんたち、しかも、できても例えば、派遣で名古屋であるとか、東京であるとか行った方々が地元でまず勉強してみようということ。それと、その皆さんたちが、じゃあどこで就職をするかといった場合に、今、看護師であるとか、理学療法士であるとか、やっぱり足りないんですね。そもそも国の制度も今、かなり手厚くするというふうに変わっていますので、そういった方々がまず医療関連、あるいは福祉関連、介護関連として新武雄病院を、もう1つになりますけれども、そういったところに就職をしていただくと、そこで、なるべく親元、あるいは親元に近いところから生活をする、していただくと。これがすなわち、私は次の武雄市政の新たな「小さなまちの大きな挑戦」であるというふうに思っております。

きのうも答弁いたしましたけれども、単に病院だからといって、その医療の関係だけで済ませるのではなくて、雇用であるとか、社会福祉であるとか、そういうつながりを持って行

いたいというふうに思っております。

今、病院関係だけで言うと500人の雇用があるだろうということは、去年の7月の池友会のプレゼンテーションでも入っております。そこに大きく期待したいのと同時に、あと今の病院が今度でき上がるところをたまに私もうろろします。そうすると、いろんな車が今、とまっています。私から直接聞くのもあれなんで、後でちょっといろいろ聞いてみると、例えば、近くにマンションを建てたい、あるいは近くに商業、お店を建てようかなということ、今、見えられているというふうに承知をしておりますので、そういったことになると、今、現に御商売をされている方であるとか、農業生産者の皆さんであるとか、そことの関連的な産業効果、そして、雇用効果も生まれてくるというふうに思っておりますので、6つ、今考えているのがありますけれども、やっぱり1つは、新武雄病院を生かしていくと、そういった意味で生かしていくということが非常に重要であると認識をしておりますので、それとあと5つありますけれども、それとも相関連をして進めていく必要があるだろうというふうに思っております。

いずれにいたしましても、やはり、生活者第一目線で、二項対立じゃなくて、生活者第一ということで、私は市民の皆さんたちの目線に立って市政運営をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市長のほうから、もう雇用の面で市民病院と看護学校の雇用もお話が答弁の中でもう出てきましたので、やっぱり市民病院あるいは看護学校ができることによって、やっぱりいろんな相乗効果が当然出てくるかと思えますから、ぜひとも期待をするとともに、今の市民病院の職員さんも雇用に関しては、もう雇用をしていただくという大前提のもとで取り組んでいただきたいということで、その辺の確認をもう一回御答弁お願いできればと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

市民病院の職員で希望される方につきましては、巨樹の会に引き継ぐということで確認をいたしておるところでございますので、その件につきましては、順調に進んでいるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな要望、今の職員さんの要望を聞きながら、適切な対応をぜひともお願いをさせていただきたいということで確認をさせていただきたいと思います。

それと看護学校の話も市長から今、答弁の中で出ましたけれども、看護学校も2年と4年がございます。ぜひとも4大を、今回の巨樹の会に要請をぜひともしていただきたいと。九州で4大があるのは福岡ぐらい、ちょっともう一回私も確認をせんといかんとですけれども、私も福岡大学を卒業して三十数年になりますけれども、やっぱり大学4大ができるというのは非常に経済効果がいろんな面ではっきり効果があるわけですよ。あと地域にも活気が出てくるというか、若い人の力とはすごいなという、やっぱり集まる環境づくりというような部分だと、ぜひとも4大の看護学校を要請していただければ、いろんな面で医療のまち武雄というような部分の位置づけにいろんな波及が出てくるかと思えますけれども、その辺の考えは市長、いかがでしょうか、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、池友会グループ、なかんずく巨樹の会と合意がとれているのは、正看護師さんの看護学校を中心とするところまで合意がとれていますので、その中で、これはちょっと杵藤武雄医師会が運営されております看護学校との連携も考える必要があります。そういった中で、そういった諸条件が、医師会のお話をよく聞いて、諸条件がクリアされれば、先ほどちょっと私も初めてその4大の話は、今の場で伺いましたので、よく池友会と協議をしたいというふうに思っております。貴重な御提言ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、4大に対しての検討というような分には非常に重要な部分があるかと思えますから、ぜひとも前向きに、いろんな形で取り組みを検討していただきたいということを切にお願いを申し上げておきたいと思えます。

そういった状況の中で、誘致企業というような部分の中で、今回、北方の工業団地ももう造成にかかっているというような部分の中で、ただ、やっぱり2年、3年先になるわけですね、やっぱりできて、完成して企業が来るまでは。そういうような若干二、三年の期間を要するわけですよ。そういった状況の中で、今現在、武雄市内の工業団地に空き地がどれくらいまだ残っているのか、既存の工業団地の部分で。

それと、その進出企業が何年ぐらいを、例えば、平成元年ぐらいに来て、もうそれ以降は武雄市に進出企業が全く来ていない、そういうような状況がわかれば、ちょっと確認をしておきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

市内の工業団地の状況でございますけれども、まず武雄工業団地で県が有するものがあと1区画、これはもう1ヘクタールでございます。そのほか、工業団地内において、工場閉鎖等で民間が所有するものが3カ所あります。これは、武雄工業団地に2カ所、それから、山内町の堀切工業団地に1カ所ということでございます。

それから、最後の企業進出でございますけれども、工業団地における最後の企業進出の、これは協定ということで御理解をいただきたいというふうに思いますけれども、平成19年3月に協定を結んでいます。ただ、その後の経済情勢で、まだ具体化がしていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まだ若干空いているというか、武雄工業団地は1区画残っているというふうな部分でしょうけれども、先ほどの冒頭に言いました円高、デフレあたりで、非常に今、企業が収益が圧迫しております。そういった状況で、海外進出というふうな企業も出てきております。

そういった状況の中で、企業は今、どういうふうな活動をしているかというのは、もう売り上げは減っていますものですから、営業活動を必死にやっているわけですよ、販路拡大という部分の中でですね。

そういった状況の中で、行政としてもその企業誘致に対して、今、そしたらどのような営業活動をされているのか。また、どういうふうな活動、仕掛けをされているのか。あるいは、工業団地に来ていただくような形で、どういうふうな特典を設けて、他市と違った特典ですよ。同じような特典だとなかなか企業も選別してきますから、そういった状況の中で、どういうふうな部分の特典があつて、今現在、どのくらい見込みというか、手ごたえのある企業が今、交渉をされているのか。ちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

まず、現在の見込みでございますけれども、新規企業についての現在、交渉を含めてやっているものについてはございません。

それと、企業誘致活動についてでございますけれども、まず、県の企業立地課のほうに情報収集を兼ねて、市から職員を1名派遣しております。

そのほか、この企業立地課及び県の関西中京の営業本部並びに首都圏営業本部から情報収集を行い、必要であれば上京をして、そして、企業訪問を行っているというのが、今現在の状況であります。

それと、優遇制度につきましてでございますけれども、平成17年5月2日に佐賀県の企業立地促進特区の第1号の指定を受けております。

この優遇措置については、県内でも上位の充実した内容ということでございまして、他市とどこがどう違うかということについては、ちょっと把握をしていませんけれども、内容的には武雄市の企業立地促進特区指定に係る奨励に関する条例の中で、製造業については投資3億円以上、10年以上の新規雇用等についての奨励金等々の交付などを今、行っている状況にあります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これに加えて、トップセールスとして、お名前を出していいかどうか、適切かわかりませんが、杉原議長のお力をよくかりています。幅広いネットワークで、「市長、出張行くぎんた、あそこ行ってくれ」とか、あるいは議長さんが「自分はここに行ってくっばい」というところで、非常に助かっております。

ただ、今、企業誘致についても冬の時代でありますので、今、私どもがしなければいけないのは、冬の時代の蓄えであります。どういうことかと言うと、1つが宮裾地区、北方町の宮裾地区に今度できますその工業の団地のエリア、それともう1つが、もう常々企業経営者がおっしゃいますのは、2つおっしゃいますね、このごろは。

まず、病院です。産業事故があった場合、あるいは家族にもしものことがあった場合、病院はどこですかということは必ず聞かれますので、新武雄病院そのものが武雄市の大きなセールスポイントになります。そういう意味で、議会の御尽力に本当に感謝をしたいと思っております。

それともう1つが、やはり言われるのは、政治経済の安定であります。武雄市の場合は、これを私が言うのもどうかと思いますけれども、政争が激しいということは皆さん知っておられます。それが一体どうなるんだということを言われますので、私自身も当事者の一人でありますので、二項対立じゃなくて、オール武雄になるように虚心坦懐にしていく必要があるだろうというふうに思っておりますので、そういった中で、さまざまなその企業誘致に関しては、その先方のほうも条件を出されます。

そういった中で、私自身として、企業の皆さんたちが安心して来ていただくような社会環境でありますとか、そういう醸成をしていく必要があるだろうというふうに認識しておりますので、ぜひ、議会の皆様方に関しても大所高所から、そういった武雄市政についての御理

解と御協力をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともトップセールスを積極的にしていただきたい。先ほど言いました企業が今、非常に冷え込んでいます。冷え込んでいるから、手をこまねいていいかというたら、そういうわけいかんもんですから、営業活動に必死に取り組んでいます。

そういった状況の中で、ぜひともいろんなお知恵を借りながら、また議長と色々な形で一緒になって受け入れる体制は整っていますから、あとはもう熱意だと思いますから、その辺をぜひともお願いをしていきたいと思います。

そういった状況の中で、企業が進出してきて、雇用が生まれるということは非常にうれしいことだと思います。ただ市長、1つ、企業を誘致するのも大事でしょうけれども、既存の、市内にも、50人、100人と雇用していらっしゃる企業があります。ただ、そういうふうな形で、大手が進出してくれば、市内の中小企業の雇用の方々がそっちに回されるという、雇用の面では広がって非常にうれしいことですが、実態としての地域の中小企業の方が、非常にその辺も悩んでおられるという実態がありますから、その辺は十分くみ取っていただきながら、対策を講じていただきたいというような形で、答弁は結構ですから、その辺も十分認識をしていただきたいということで、確認をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、ちょっと時間も経過しておりますので、「がん予防日本一武雄」の質問に入っていきたいと思っております。

がん予防という同じ予防で、新型インフルエンザのワクチン接種について。

今回、補正予算の中で低所得者に対してのワクチン補助の助成が予算に出ております。何としても可決し、助成をしていきたいというふうな形で思っておりますけれども、ただ、インフルエンザでの死亡も全国各地でもう100人以上出ているという新聞でも報道がなされております。

そういった形で、非常に市民の皆さんにとっても一般はいつから接種できるのと、優先順位がありますから、小学校3年生まで、あるいは重病の疾患を持っておられる方を優先してというような部分、あるいは今後どのような形でのスケジュールであるのか、そういうふうな部分が非常に市民にとっては不安な部分でありますので、その辺の十分な体制というか、今、状況として、インフルエンザの接種に対する状況をどう行政として認識というか、市民の皆さんに公表されているのか。ちょっとがん対策の前に確認をしておきたいと思っておりますので、御答弁をよろしくお願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

新型インフルエンザのワクチン接種につきましては、佐賀県の実施スケジュールによって行っているところでございます。これにつきましては、ホームページや市報で当然知らせておりますけれども、特に11月中旬のマスクの全世帯配付時にチラシを出しております。（チラシを示す）これですけれども、御家庭に行ったのはピンクだと思っておりますけれども、これにワクチンの接種についてということで、優先対象者とか、費用とか、受け方ですね、それから医療機関とか、大体網羅したところでお知らせをしているところでございます。

それから、非課税者、低所得者の非課税者の方につきましては、全員の方に一応はがきをやっております。大体世帯数としましては3,700戸強ですね。それから、人員としては7,500名ぐらいということになっております。その方につきましては、打つ場合は医療機関に非課税証明書を持っていかなければなりませんので、発行と問診票ですね、予診票を窓口で発行しているところでございます。

それから、ワクチンや医療機関の接種の対象者等については、今申されたように市民からの問い合わせがありますけれども、窓口、電話で対応しております。ただいま申されましたように、該当者じゃない人、接種優先者じゃない人の接種についてはどうなのかという問い合わせがあっているところでございますけれども、まだその辺の方向性が出ておりません。それから、佐賀県ではこの前、先週末に新聞に載ったと思っておりますけれども、中高校生を17日ぐらいから接種したいというような方針が出ておりましたけれども、これについても具体的には市町村にまだおいておりませんので把握していないところです。

一応、特に苦情等というようなことはあっておりませんので、今、このような体制で実施を行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな市民からの問い合わせ、私自身にも問い合わせがっておりますので、その辺は十分な対応、体制を整えていただきながら、県からまだ指示が来ていないから手をつけていないということじゃなくて、やっぱり県の指示を当然受けてからでしょうけれども、来てすぐ対応できる体制をぜひとも整えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げておきたいと思っております。

それでは、「がん予防日本一武雄」の計画についてお尋ねをさせていただきます。

まず、検診率の向上とがん教育についてということで質問に入っていきますけれども、中川先生の言葉をかりますと、「「がん検診を受けなさい」と啓発しても、なかなか向上率は上がりませんよ。がんという病気がどういう病気なのかを知ること、また伝えることが大切

ですよ」ということで、中川先生は、この前のがん撲滅大会のときに話をされたところでございます。

私も6月に「がん対策強化をぜひとも」ということで提案をした一人として、そのがん撲滅大会にも参加をさせていただきまして、改めて検診の必要性を感じた一人でもございます。

そういった感じで、がん撲滅大会の実行委員長であられた樋渡市長から大会を終えての感想とございますか、思いをお聞かせしていただきたいと思っておりますけれども、よろしくお願いたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

11月3日のがん撲滅推進大会には、市内外から700名の御参加がありました。先ほど松尾陽輔議員さんからありましたように、中川恵一先生の基調講演並びに私を含めたディスカッションがあって、本当に、やっぱりこれは客席と私たちがいるところでどう反応するか、やっぱりわかるんですね。話を聞かれながら涙ぐむ方がおられたりとか、その中には、ユーモアあふれた笑いがあったりとか、本当にその会場と一体感があって、その後に、北村尚志さんの「あなたの手紙」というがんの撲滅推進大会のためにつくられた歌を弾き語りで歌われて、それが今、ユーチューブにも実は載っておりますけれども、私たちが思った以上に、今、広がりが出てきております。

これは、くらし部がもう本当に、土日なく準備をした一つの結果だというふうに思っております。そして、今は、大会が終わって11月3日でありましたけれども、私は杵島信用金庫のあの尾形さんであるとか、さまざまな方がブログに載せて、そのときのブログのアクセス数が、私は今、1日平均1,500ぐらいなんですけれども、7,000ぐらい行きました。ですので、非常にその関心があるということと、関心の広がりを今、実は考えておりますので、今後は、がんの撲滅推進大会の成果を踏まえて市民運動で協議会の立ち上げであるとか、さまざまに、そして、きのうの答弁でも申し上げましたけれども、学校の現場に、ぜひ東大の中川先生のお力をかりながら、がんも自分の体の一部分なんだという中川先生のその教えに中学生の諸君も耳をぜひ澄ませてほしいなというふうに思っておりますので、そういった中で、結果的にじゃあ検診に行こうであるとか、いろんな食事を考えようであるとか、そういった方向につながっていくということになればいいなと念願をしております。

この件に関して申し上げますと、本当に市民の皆様方に感謝をしたいというふうに思っております。実際、「聞けなかったけれども、今度いつ中川先生の講演があるの」とか、多数、議員さんたちも聞かれていると思っておりますけれども、また、こういう機会をぜひつくってまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひ御協力方をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういった中で、6月にも市長、がんの特効薬は何ですかということで問いかけもさせていただきました。がんの特効薬は早期発見、早期治療ということも中川先生の話にも出ておりました。そういった中で、公明党が推進をさせていただきました乳がん、それから子宮がんの無料クーポン券、前回お話もさせていただきましたけれども、乳がん、オランダの検診率が89%ですよ。カナダが70%、アメリカ72%、日本は20%ですよ、10人に2人しか検診を受けていない。子宮頸がんもオランダが66%、カナダが72%、イギリスが約80%、日本は23%というふうな統計というか、状況が公表もされております。

そういった状況の中で、無料クーポン券、乳がんと子宮がんが交付をされておりますけれども、今の交付の状況がどうなっているのか。あるいは交付されて、病院に行っても、その制限、きょうは5人ですよというふうな部分の中での制限された受診でなかなか行ってもすぐ受けられないというふうなことも、一部声が寄せられております。そういった体制、受診体制はどういうふうな形で、今、取り組みをされているのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思いますが、御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

この無料クーポン券の対象者ですね、一応子宮がんが1,463名、乳がんが1,842名というふうになっております。

無料クーポンを9月末に対象者へ発送をしております。それで、10月より検診を開始しておりますけれども、一応受診体制というか、検診体制がなかなか難しいということで、整わなかった感があるんですけども、集団検診を土曜、日曜含めて6日間の追加、それから、個別検診につきましては、杵島郡、嬉野市、武雄市内で総合受診ができるように、子宮がんは7カ所、乳がんは4カ所の医療機関で契約を行ったところでございます。

また、4カ所とは別に、乳がんにつきましては、市民病院のほうで協議して、市民病院のほうではなかなか難しいということでありましたけれども、御協力をいただきまして、400名を確保しております。また、はがきや電話で対象者には勧奨を行っておりますけれども、受診状況は子宮がんが11月の中ごろの統計ですけれども127名、7.8%、乳がん検診が286名、15.5%となっておりますので、これの使用が2月までとなっておりますので、さらに電話等、または訪問等で受診を勧奨していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、受診に対する啓発、啓蒙をよろしくお願い申し上げたいと思います。

そういった中で、今回限りの無料クーポンです。政権は変わったもんですから、継続事業としてなるかどうか非常に微妙な部分ですけども、何とか最低5年間は続けていかないと、せっかくの無料受診の効果が無いというか、不公平な部分がありますから、市長ぜひともその辺の部分に関しては最低5年間は継続するような形で、後押しをぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

乳がんは、40歳から50歳までですね。あるいは子宮頸がんは20代から30代が非常に今、ふえているというような状況ですから、これは非常に今、検診の必要性が問われてというか、非常に訴えていかにかん部分ですから、ぜひともよろしくお願いを申し上げながら、長野県では、健康教育の中で胃がんの受診率をどうやれば上がっていくのかということで、年間80回、集落への説明会に回られてやっと受診率が上がったという実態が出ております。やっぱり足を運びながら、がんをいかに知らしめていくかということも大事な行政の仕事ではないかと思っておりますから、定期的にとちょっと年間80回というのは相当な労力も必要かと思っておりますけれども、その辺も徹底して検診向上のために御尽力をいただきたいと思っております。

そういった状況の中で、女性で一番多いのは乳がんですよ。「余命1ヶ月の花嫁」、長島千恵さんですか。非常にもう何とも言えない状況ですよ、24歳の若さで余命1カ月の花嫁、見られましたか、皆さん。もう何とも言えないですよ。そういった状況の中で、いち早く市長は「がん予防日本一」を掲げられて、例えば、女性専門の日帰りドック、あるいは働く女性のための日曜日のがん検診、あるいは企業に対する食育、がん検診という、いろんな今からの仕掛けが大事な部分ですよ。そういった状況の中で、集中的に取り組まにかんという部分の中で、ぜひともがん対策特別室というふうな推進室でもつくって、これは徹底してやっていくべきじゃないかということで、私は提言をさせていただきたいと思っておりますけれども、御見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当にがんの場合が、去年の市民病院の、選挙をめぐって、あるいは今回のがん撲滅の大会で結構各部にまたがるんですね。暮らし部の中でも、やっぱりまたがります。事前の話であるとか、事後の話であるとか、あと市民病院の事務長もおりますけれども、その市民病院との関係も出てきますので、私としては、仮称ですけど、がんの撲滅の推進室をつくらうと思っております。これについては、事務的にちょっと時間が要りますので、整理をさせていただいた上で来年の春に立ち上げていきたいというふうに思っております。

もう1つ、この大きな窓口として、新武雄病院におかれても、2月1日に民間移譲になり

ますけれども、ぜひがん対策には力を入れていただきたいと思っております。それは、とりもなおさず、やはり検査であります。先ほどありましたように、日帰りのPETであるとか、日帰りの検査であるとか、さまざまな機能をしていただくと。これは、あくまでも開業医の皆様方が主体でありますので、開業医とよく連携をしたいというふうに思っております。ですので、がんの撲滅の防波堤にぜひ、今度の新武雄病院はその中心を担っていただきたいと思っております。

その上で、私としてはもう1つ、これはさきの答弁でも行いましたけれども、食生活であるとか、あるいは生活習慣であるとか、そういう講座を新武雄病院、これは和白的の得意分野でありますので、そういう市民講座を頻繁に開いていただくということも含めて、これはぜひ農業生産者の皆さんと連携をしながらしていく必要があるだろうというふうに思っておりますので、今度の新武雄病院の新たな設置が、そういうがんの撲滅の推進、起爆剤になるように、行政としても、そういったことで連携を深めていきたい、医師会と連携を深めていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、そういうような形で集中的に取り組みをお願いをしておきたいと思えます。

そういったことで、先ほど学校でもがんの講座をとということで話も出ておりました。岡山県の朝日高校っていう高校があるわけですよ、そこで、中川先生も学校現場の中で話をされて、子どもたちに対して、がんがどういう病気なのか。また、どうすればがんが完治できるのかということの講演をされたそうでございます。

その成果として、その子どもたちがお父さん、たばこ、お母さん、マンモ受けに行ったという声が子どもたちから出てくると、そういうような状況が非常に、お父さんもそいぎん行かんばいかんね、検診に行かんばいかんねという部分で、意識づけが高まってきたという効果が出てきたという部分が報告もされております。

そういった状況の中で、ぜひとも幅広く、今後定期的に各学校でも開催をしていただきたいというふうな計画と、「がんのひみつ」、中川先生が書かれた非常にわかりやすく、がんがどういうものかというのが非常にわかります。（「わかりましたよ」と呼ぶ者あり）はい。これも、ぜひとも学校現場での教材としての取り組みあたりも、健康学習科、道徳科とか、どういう機会、学校現場の中で取り入れができるかどうかわかりませんが、こういうようなことも1つの材料じゃないでしょうけれども、啓発運動の一環として取り組みをぜひしていただきたいというふうなことで提案もさせていただきたいと思えますけれども、市長の御見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、保険会社のアブラックさんに感謝をしたいと思っております。

これは、杵島信用金庫さんが仲立ちをしていただいて、1,000冊の寄附をいただきました。「がんについて学ぼう」という冊子、本をいただきましたので、これは直ちに、この前の11月3日のがん撲滅推進大会のときに、来られた方、来場された方にお渡しをしたところで、これは非常にやっぱり好評ですね。

今、コピー版も出回って、私のところにはコピー版が来ましたので、それも今、読んでいます。それぐらいに、非常にこれが市民の皆さんたちに伝播をしているということでありませう。

今回の地域活性化経済危機対策臨時交付金によるがん撲滅地域活性化事業というのがあります。その中で、これは教育委員会とよく協議をする必要がありますけれども、執行部としては、「がんについて学ぼう」、1,600冊を購入しようということをお思っておりますので、この教材をどう活用するかについては、よく教育長と、教育部長と協議をして、効果的な、先ほど私も初めて思いました。子どもからお父さん、お母さんに言うっていうのは、ああそういう効果もあるんだということも非常に勉強になりましたので、いろんな教育効果を、教育委員会とよく協議をしていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともそういうふうな取り組みをしていただきたいということで、要望もさせていただきたいと思っております。

それと、先ほど子宮頸がんに関しても、ちょっとお話をさせていただきましたけれども、子宮頸がんのワクチン接種が日本もやっと承認をされました。先進100カ国はもう前からこの検診というか、子宮頸がんワクチンの接種に関しての承認を得たところですが、日本がやっとことし承認をされたというような部分の中で、その子宮頸がんの要因は、ヒトパピローマウイルスというワクチンだそうでございます。

そういった形で、このワクチンを接種することによって、約70%の方が子宮頸がんから完治するというか、もうワクチンが、抵抗ができるということで、非常にワクチン接種の効果が出ているというような状況も世界各国で報告もされております。

ただ、金額が3万円から5万円と高額ですよ、費用が。ただ、その子宮頸がんは14歳、15歳ぐらいからもう打てるそうです。そういった状況の中で、早くもう効果がわかるとれば、そういうような部分で積極的に武雄市もがん予防という部分では取り組みをすべきじゃないかということで、これに関しても市長の御見解というか、積極的な取り組みを御提案させて

いただきたいと思っておりますけれども、御見解についてお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

子宮頸がんワクチンにつきましては、先ほどありましたように、若年者、中学生までに3回の接種を3万円から5万円程度の予算がかかるといったことで、これは私どもといたしましては、その効果あるいは副作用等をちょっと見ていく必要がやっぱりあるだろうと、この部分は、行政はやっぱり慎重にする必要があるだろうというふうに思っております。

その上で、ぜひ、これはユーチューブでも流れますので、連立与党の皆さんたちにお願いたしたいのは、やはり「コンクリートから人へ」と標榜されているというのは、まさにこのことだというふうに思うんですね。ですので、私としては、地域の、市町村単位の策ではなくて、これはあくまでも日本国民を守ることにもなりますので、ぜひこれは国策として推進をしていってほしいなというふうに思っておりますので、ぜひ、また人に優しい公明党さんの力をおかりしながら、ぜひ民主党政権に、鳩山政権に声を届けていく必要があるだろうというふうに思っております。

いずれにしても、この子宮頸がんの今の検診率の低さも含めて、このワクチンていうのがある意味の特効薬になるんだろうなと思っておりますけれども、ここは慎重に効果あるいは副作用をちょっと見ていきたいなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ワクチンの副作用も非常に確認をした上での対応も当然必要かと思っております。インフルエンザのワクチンに関しても、いろいろな副作用の問題も出ておりますし、そういうようなことで、もう1回確認をしていただいた中で、国策としても取り組みをしていただきたいということを切にお願いしながら、また市政でもそういうふうな形の積極的な取り組みを、ぜひ私のほうからも御提案、実施をお願いさせていただきたいと思っております。

そういったことで、がん予防の面からお話をさせていただきましたけれども、緩和ケアの部分で、ちょっとお話をさせていただきますけれども、ちょっと御紹介というか、「がんのひみつ」の中川先生の本を紹介させていただきます。

緩和ケアは治療の最初からということで、我が国ではがんの患者さんも治療に当たる医師も、ともかくがんを治すことだけを考えてきました。完治はもう無理とわかっていても、亡くなる前の日まで抗がん剤を使ったりするものです。

このような例があります。直腸がんの手術の後に、肝臓の転移が見つかった患者さんのケースです。ずっと強い抗がん剤の治療を受けていて、結局は副作用で白血球が減り、感染症で亡くなりました。

解剖をしたときに、担当医から患者さんの奥さんに満足そうに、「よかった、抗がん剤がきいていました、肝臓のがんは消えていますよ、奥さん」と言ったそうでございます。がんは消えても、治療で患者さんは亡くなっている、本末転倒である。

現在、がんの治癒率はおおよそ5割ぐらいです。治療の進歩にもかかわらず、いまだに半数近くの方が命を落とされておりまして。しかし、がんで亡くなる患者さんを支える医療が日本では十分に行われているとは言えません。これまで、日本のがんの治療の現場は治癒率を少しでも高くすることだけに力を注いできました。まさに、勝ち負け重視の医療でございます。しかし、死に直面し、体や心に痛みを与えている患者さんにこそ、最高の医療が提供されてしかるべきでしょう。これこそが医療、医の原点であるはずで。

欧米では治癒できないがんや痛みなどの症状を持つ患者さんのさまざまな苦しみを和らげることを主眼として緩和ケアの考えが確立をされております。日本はがん治療の後進国ですが緩和ケアはさらにおくれているのが現状です。がんの痛みを和らげることは緩和ケアの一番大事なところですよ。

ということで、中川先生の「がんのひみつ」にも書いてあります。非常に大事な部分ですね。予防の反面、緩和ケアをどう患者さんに対してとっていくかという部分の中で、これも市長、市全体としてケアの部分に関しても取り組み、ホスピスというふうないろんな部分もあります。そういった意味で、どのような形で市全体としての取り組みを考えられていくのかどうか。また、新しい病院にもこういうような部分について、緩和ケアの体制もぜひともとっていただきたいということで申し出もしていただきたいと思っておりますけれども、御見解をよろしく願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

県内の緩和ケアの病床については県立病院好生館と唐津市の河畔病院にあります。これはこの前、11月3日にシンポジウムがありましたけれども、やはりこの緩和ケアの病棟は必要だと思っております。

今、ただ、私自身もまだ勉強不足でありますので、行政としては、そういう市全体が緩和ケアの考えを尊重するというようなまちづくりをする必要があるだろうと思っております。

がんの予防推進協議会を中心として、地域ボランティアの皆さん、患者会、がん予防推進委員の皆さん等、あるいは地域団体の活動を通じて緩和ケアそのものについて学ぶことと同時に、これも杵島信用金庫さんから御紹介いただきましたけれども、山口県の周南市に「周

南いのちを考える会」があります。そこがNPOとして、緩和ケアの病棟を運営されている。いろんな金銭面であるとか、さまざまな御苦勞があられます。そういったこともきちんと勉強しながら、ぜひ、こういう緩和ケアに対応ができるようなまちづくりを進めていかなければいけないと思っております。

ですので、ぜひ、こういう事例があるよ、こういうNPOが、皆さんたちがこういう事例をしているであるとか、あるいはこういう病院が、例えば開業医の皆さんたちが、こういう緩和ケアをしているであるとかいうことについては、議会の皆様方もぜひ全国の御視察にも行かれておられますので、そういう観点からもぜひ、情報収集をお願いしたいというふうに思っております。これを含めて、市民全体で勉強をしながら、こういった活動を進めていきたい、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともよろしく願いをいたします。

ちょっと本を最後に御紹介して、がんの質問を終わらせていただきたいと思っておりますけれども、「緩和ケアは、人生の時間をくれます。私たちは、人は皆死ぬのだ。命には限りがあり、それゆえに尊い、命は尊いということも、もう一度考える必要があります。がんを知ることには豊かな人生を送るためにも必要なものです。」ということをつづられております。

私も55歳、同級生の友を10月に亡くしたということを目撃申し上げましたけれども、その友からも、人となり、あるいは人のありようというのを身近に教えていただきました。学ばせていただきました。

そういった形で、このがん予防、がんに関しては予防日本一という部分の旗上げをされている以上は、ぜひとも日本一になっていただきたいということで、いろんな後押しを我々議員も一丸となってさせていただきますので、よろしく願いを申し上げて、最後の質問に入っていきたいと思っております。

ちょっと時間も迫ってきましたので、事業の継続と提案ということで、ちょっと確認を、要約して申しわけないんですけども、話をさせていただきたいと思っております。

学校サポート支援事業について、今、事業仕分けでいろんな予算も削られております。そういった状況の中で、学校に配置されておられます支援員制度、補助員さん、特に特殊学級というか、特別学級に補助員さんがいらっしゃいますけれども、これは緊急雇用対策で配置がされております。非常に、先生、担任の先生も助かっていらっしゃる部分が、また障がい者の方も頼りにされているわけですよ。また、今後、発達障がい子どもさんたちもふえてくるという状況の中で、補助員制度はぜひとも継続をしていただきたい。ただ、民主党では

見直しをするという部分がありますから、これはぜひとも継続をしていただきたい。

また、子ども読書活動推進事業についても見直しをすると、最終廃止の決定ではないでしょうけれども、方向としては見直しをするというような話も出ております。この子ども読書推進活動事業に関しては、お話の会、あるいは子ども読書会、図書館子ども講座、あるいはブックスタート、いろんな面で少額の金額ではありますけれども、この事業は非常に効果が上がっています。

私自身も、教育はただ単に知識の詰め込みだけではなくて、人間教育といいますか、その辺が非常に大事な部分ですよ。これは何から養われていくかというぎ、本からですよ。やはり本を読み、本の中から想像力といいますか、いろんな読む力、読解力、想像力、あるいは理論的な思考が生まれてくるというふうな、非常に本の位置づけは重要な部分ですけども、この分はぜひとも、事業の継続をお願いしていきたいと思いますけれども、どのような来年度に向けてのお考えか確認させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

今、議員さんおっしゃられたとおり、特別支援学級の支援補助員につきましては、これはやっぱり物すごい効果が上がっているし、期待もあるというふうに思っております。そういうことで、これは緊急雇用促進事業でやらせていただいておりますので、来年についてもお願いを今、しているところでありますし、そういう方向で動いてくれというふうに思っています。

それから、読み聞かせ事業、これについても、事業仕分けじゃなくて、これはもう市の単独のほうでやらせていただいておりますので、来年についても取り組みをしていきたいということで考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

冒頭に言いました。やっぱり事業の仕分けは当然です。ただ、やっぱり継続していいものは予算をつけながら、優先的に実施をしていただきたいということで、その支援員制度の継続、または読み聞かせ運動、ブックスタートあたりもぜひとも単独市費でも補助がつかなければ、そういうような形で予算をつけていただいて、やっぱり人間教育という部分の中での子どもたちを育て上げるという部分が非常に今後大切かと思えます。

ただ、そういった状況で子どもを育て上げるというような形で、きのうも質問に出ておりました。いろんな暴力事件、子どもたちの学校現場は非常に今、混乱といいますか、いろん

な問題が出ております。ちょっと時間もございませんので、また改めて3月議会にこの辺は確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、不登校、関係者の連携が大切ということで、白石町の稲佐英明さんが話をされておりますので、最後に紹介して終わりたいと思っておりますけれども、不登校、関係者の連携が大切ということで、ここで一番大切なことは話し合いの場を定期的に持つことである。どのような支援がベストであるかということの答えはないが、誠意を持ってその子どもと接し、一緒に悩み、一緒に解決していこうとする態度が、また態度を持つことが必要とわかった。つまり、重要視、共感、理解を促し、自己実現に向けて粘り強く支援していくことであるということで、経験者も話をされておりますので、長い長い支援でありますけれども、子どもたちのためですから、尽力していただきたいことをお願いし、私の質問を終わります。ありがとうございました。